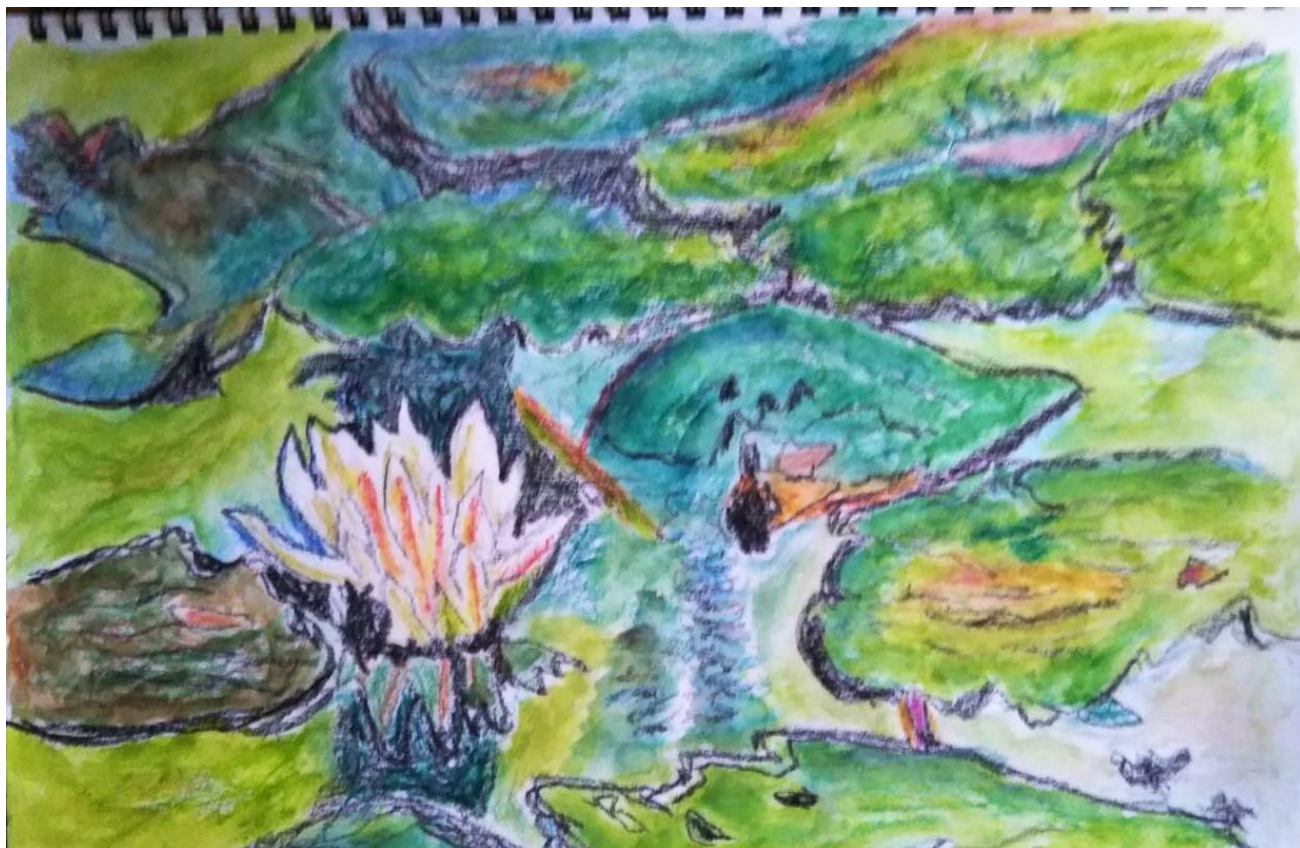




井上清彦「読書の森公園池の睡蓮2020」

作者コメント：散歩のときに近くの「読書の森公園」の池に咲く睡蓮を色鉛筆でスケッチした。頭にはモネの睡蓮をイメージしながら。狭い構図でも十分表現できることがわかりました。色鉛筆で書いたものに水を含んだ筆でなぞったら、水彩の味が出てきました。

喜田コメント：睡蓮を井上さんのように描いた友人は初めてです。素晴らしいと思います。

- (1) まず、睡蓮の花が一輪であるところが素晴らしいです。観る者の目線は見事な睡蓮の花にひきつけられます。その後、アイトレースは色彩豊かで面白い葉っぱや、水面や、暗い影や、一様に水面をさまよい、最後にまた、見事な睡蓮の花に戻ってきます。
- (2) 色彩は色鉛筆ですが、多様で美しいです。おなじ緑でも睡蓮の葉っぱはすべて違った色合いに投影され、観る者を退屈させません。
- (3) 最後に黒い鉛筆で描いた影の面白さがあります。白い花びらに描かれた縦の赤い線も生きてます。
- (4) とても美しい作品です。不思議な世界に誘われるような魅力があります。



岡田理子「猫と薔薇」

作者コメント：私の大好きな、猫と薔薇を取り合わせて描いてみました。

背景はにじみを生かしてチャレンジしてみました。

喜田コメント：猫だけ描いたら上手に描いても面白くありません。猫の横に控えめではあるが、華やかな赤い薔薇がボヘミアンのカットグラスに刺されておかれたために、猫がいろいろな物語を語り始めました。

猫の柔らかい、ふさふさした毛の表現は秀逸です。色を使わずに陰でやわらかい毛の感触を表現したのは、まるでプロの領域です。猫の眼の表情も作品に深さを与えました。

色彩的には岡田さんの個性が十分発揮されています。



黒田重雄 「妻が活けたチューリップ」

作者コメント:妻が活けたチューリップが玄関に飾っていました。8月の習作にこれを描きました。

いつも背景をどう描くかで悩めますが、今回も悩んだ挙句中途半端になりました。

喜田コメント:本当によく対象物を観察して描いていると感心します。観察は写生の基本です。

構図的に感じることで、この絵の構成要素は ①花の房、②葉と茎、③陶器の壺、の三つです。

これらが気持ちよく収まっていて、破綻がありません。

次に描写について、まず、色彩が抑制されていて気持ちがいいです。

チューリップの特徴をよく捉えて、とてもうまく描いてあります。陶器の壺の渦巻き模様や色彩も作品に面白さを加えました。

問題の背景については、無難にまとめてありますが、冷静すぎて物足りなさを感じます。徐々にで結構ですから、冒険をしてみましょう。冒険は「ブレイク」というご褒美をくれます。

黒田さんの描写力をベースに飛躍したら、すごい絵が描けると思います。



武智康子「赤い子ブレットと葡萄」

作者コメント: マンションの一階のかたから、庭のブドウ棚のひと房をいただきました。高さ30cmの真っ赤なゴブレットを添えて描きました。赤いガラスの反射が美しく、観ていると引き込まれそうでした。

喜田コメント: 良い作品が描けましたね。少し勉強をしてみましょう。

(1)構図的なコメント: 赤いゴブレットの縦の線と机の横の線がばっちりと作品を締めました。

(2)描画について: 赤いゴブレットに反射する光の美しさに感動したのですよね。その感動がそのまま、観る人に伝わってきます。ゴブレットの光ったところの表現も上手です。

黄色いリンゴか梨でしょうか、置いた場所がとても良かったです。机の横線をよぎった効果が出ました。赤・緑・黄色の色彩のバランスも良い。

(3) いつもそうですが、背景は作品を生かしたり殺したりします。今回の背景は少しうるさいです。机と同じ表現でなく、もう少し、きれいな色でさらっと描きたい。



竹前義博「夏空の下の向日葵」

作者コメント:私の田舎は長野県須坂です。夏のほとんどを須坂で過ごしています。

この向日葵は田舎の家の近くに咲く野生の向日葵、暑い夏の陽を浴びて、青い空の下に咲く向日葵を表現しようと思いました。

喜田コメント:竹前さんの田舎である須坂に、私は何度もお邪魔しています。家の周りの雰囲気も理解できます。とても美しく快適なところです。須坂の真夏の向日葵は8月に描くモチーフとして、ピッタリです。

- (1)一気に描きたい気持ちをキャンバスにぶつけて、気持ちが離れない間に描き上げた一枚ですね。気持ちがこもっていて、画面からその感動が伝わってきます。
- (1)この作品は、描きたいものが明確であるので好感が持てます。向日葵と夏空が主役、山と雲は脇役です。したがって、描く時間の8割は「ヒマワリと青空」にかけましょう。
- (2)空の青さと向日葵の黄色い花卉の対比がこの作品をポイントです。そのために対比をもう少し鮮明に出したいです。青い空はよく見ると「黒」につながるほど濃くて深いものです。
- (3)4輪の大きな向日葵の一つくらいは横向きか後ろ向きでもいいですね。そして、種をとる芯の部分と葉っぱはもう少し、強い表現が好ましいと思います。

この作品は「はがき」
サイズのちぎり絵
です。



月川りき江「夏の思い出」

作者コメント:私の作品は「はがき」サイズのちぎり絵です。素材はすべて新聞紙、新聞紙の中のいろいろなカラーの部分を利用して、それを手でちぎりながら、はがき大の台紙に張りながら制作を進めてまいります。大きな画用紙に筆でのびのびと描く水彩画に比べるとたくさんの制約があります。8月の作品「夏の思い出」は昔を思い出しながら、制作しました。

喜田コメント: 小さな、ハガキ大の世界に作者の計り知れない大きな世界を表現する「月川芸術」です。
この作品について、いくつかのコメントをさせていただきます。

- (1) はがきの中に、小窓を開けて、その窓から昔の思い出を表現するというアイデアがまずユニークです。万華鏡を覗いているような気持ちでしょうか。
- (2) 何処の海でしょうか、少女は誰でしょうか。少女は海を見て何を考えているのでしょうか。
- (3) 少女の後姿の向こうに広がる青い海と青い空、ヨットやボート、空に舞うカモメが 2 羽、砂浜には砂遊びの「バケツとシャベル」赤い蟹さんも面白い。
- (4) 空から海に至るブルーを三段階に分けたところもいいと思います。一つ疑問があるとするれば、なぜカモメを白抜きにしないで、黒で表現したのでしょうか？



筒井隆一「貝殻と壺」

作者コメント： コロナのごたごたや猛暑により、スケッチブックに向かう気力も削がれます。
この作品は家にある小物を卓上に並べ、二日かけて、何とか描きました。
一日目と二日目で上から見る角度が違ったのでしょうか、皿と花瓶の仕上がりに狂いが生じました。

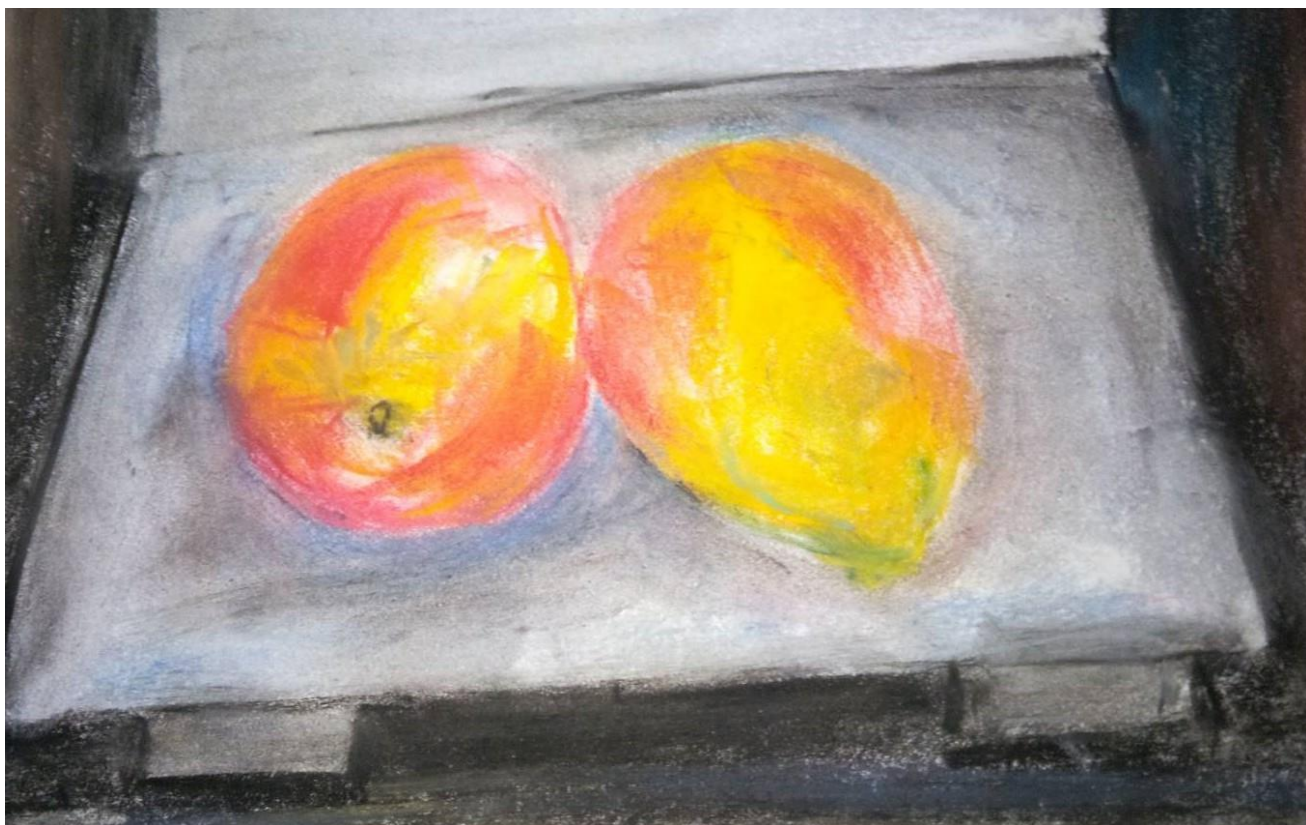
喜田コメント： 構図も色もタッチも、すべて気持ちの良い作品です。

(1) 作者コメントに述べられた、描画について少しコメントさせていただきます。

まず、①背景になっているテーブルカバーは真上からみた表現になっています。②ガラスの花瓶と貝殻は斜めから見た描写です。そして、③牛(ロバ?)の絵柄の黄色い皿はやや斜め上から見た描画になっています。確かに筒井さんのおっしゃるように、この絵には3か所の異なった視点から見た表現が混在しています。

これは失敗ではありません。これが作品に新鮮な息吹を与え、躍動させて作品を面白くしました。私なども意図的に使う、手法です。

(2) もう一つ感心したのが、ガラスの花瓶や黄色い皿の絵柄や模様の描き方です。どれも表情豊かで、素晴らしいと思います。



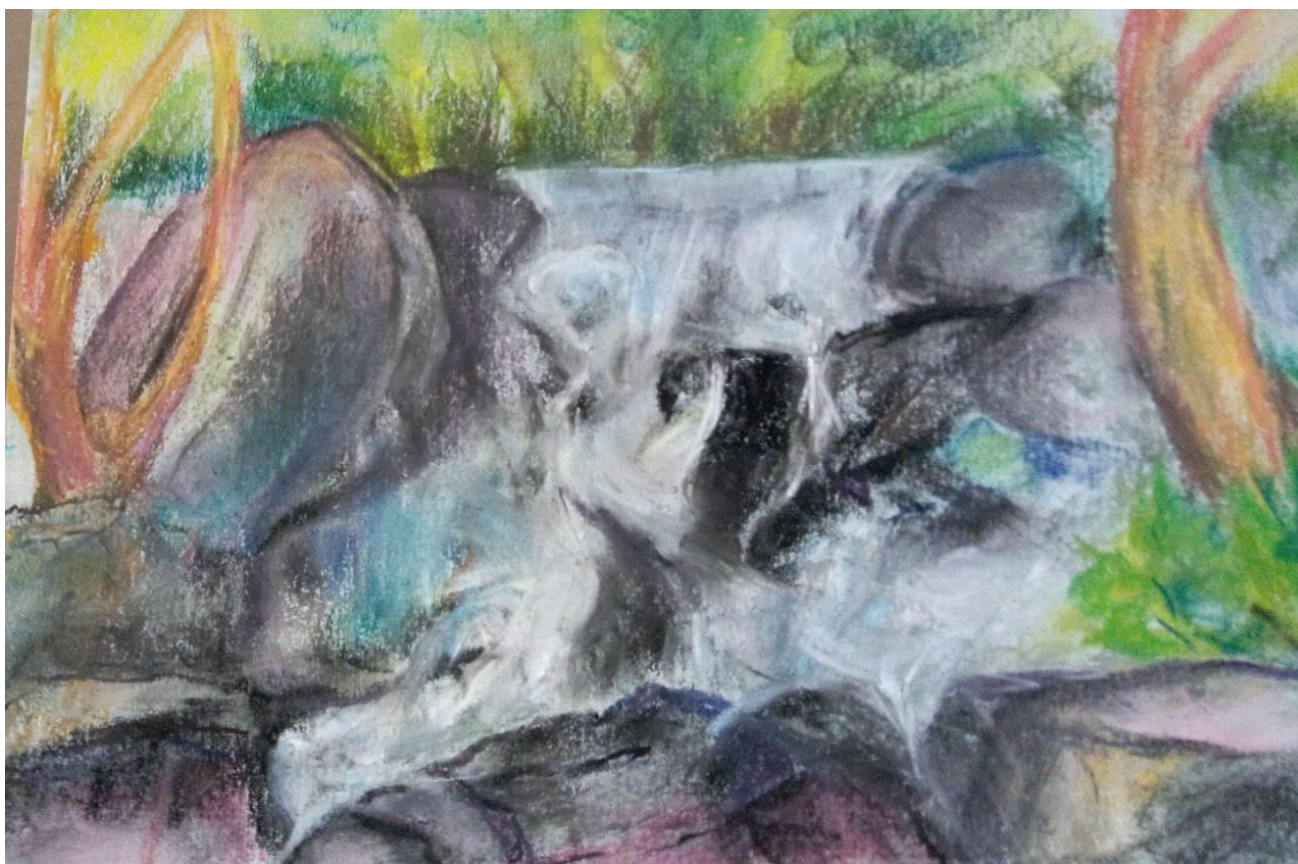
遠矢慶子「長男から届いたマンゴー」

作者コメント:長男から送ってきた「マンゴー」をパステルで描きました。

喜田コメント: 遠矢さんの作品はパステル画である。最近、ぐんぐん腕を上げている。

この作品のモチーフはタイトルからも分かるように、息子さんが送ってくれた高価なマンゴーだろう。それを、絵に描き留めて、息子さんに感謝の気持ちを伝えたい、という思いが伝わってくる。構図的には極めて単純である。マンゴー2 個を椅子に白い布を敷いておいただけのものだ。そんな単純なモチーフでこれだけ、物語を語れる絵を描けるということが能力である。

- (1) 構図、少し斜めに描いてあるがこれは意図的なものか、写真に撮影するときに斜めになったものかわからないが、少し傾いているほうが良い。白布を敷いた下から椅子の二本の支えが見えているが、これも必要な要素です。あったほうが良い。
右上、左上、右下にできた、暗黒の三角地帯を面白いと思いませんか？
作品に動きを与え、生き生きとさせます。
- (2) 描画と色彩、黄色と赤色の初々しいマンゴーの姿、とても明るくて柔らかで、乙女のようなです。色彩のグラデーションも素敵です。
- (3) 少しマンゴーが軽すぎるかな、もう少し、マンゴーに重量感を与えるにはどうすべきかなあ。考えましょう。マンゴーが白布に作る蔭を強めに描きましょう。
- (4) こうやって見てくると、絵画は平凡の中にアクセントと変化をどうやって出すか、に尽きるのです。



遠矢慶子「葉山しおさい公園の滝」

作者コメント： 近くにある「葉山しおさい公園」の風景です。メディアはパステルです。

喜田コメント： まず、葉山にこんな滝があることが驚きです。人工の滝でなくて本当の滝ですか？

スケッチブックのサイズがどのくらいの大きさかわかりませんが、まあ、6号くらいのサイズでしょうね。F6号ほどの小さな紙にこんな雄大な景色をかけることが素晴らしいと思います。パステル独特の柔らかさとやさしさのある作品です。

あまり、細かいところにとらわれなくて、雰囲気をつかんで骨太に描くという成長の条件をクリアしているように思います。

- (1) 制作の意図は、滝を面白く描きたいという純粋な気持ちでしょう。
- (2) 構図は、上面に奥に横たわる緑の部分、下面に横並びの岩、そして中央部に主題の滝と岩を描く、両サイドを一本ずつの太い立木で作品を締める。こういう構図です。
- (3) 描画と色彩が良いです。代表は沢山の岩です。どの岩も独特の色を持っています。岩には、グレー、紫、茶色、青、赤など、たくさんの色を丁寧に控えめに整理して使っています。水の流れをこんなに自然に陰影と色彩で表現できるのがうらやましいです。
- (4) 右中央の薄緑の灌木は、珍しく色が練れていません。絵として大事なこの部分の緑をもうすこし工夫しましょう。



若林哲史「野アザミと壺」

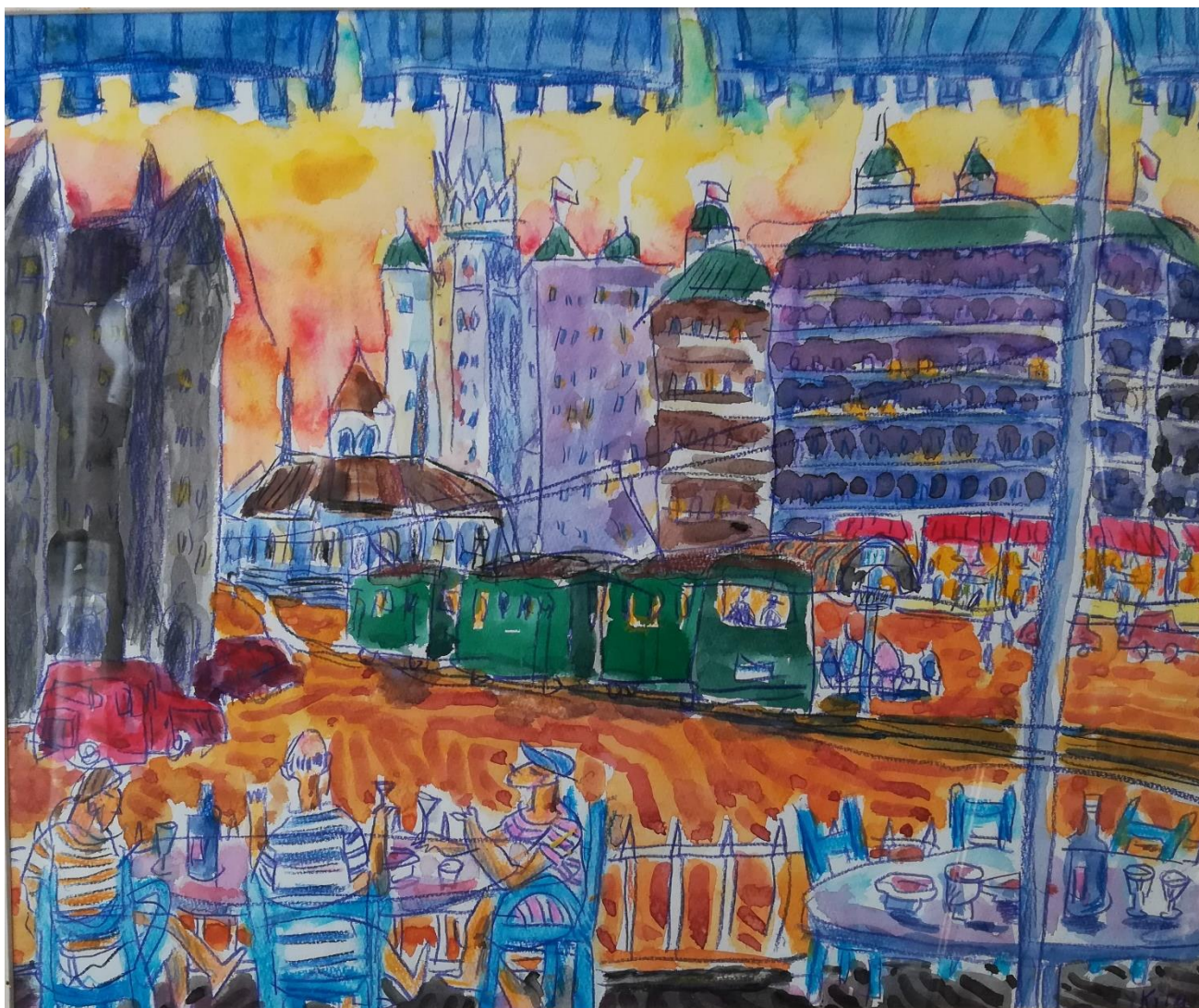
作者コメント :この作品は1年ほど前に「あとリエー丁」で描いたものをベースに大胆な着色をチャレンジして描きなおしたものです。画面左の部分は「滲み」を狙ってトライしましたが、思うような色が出ませんでした。皆さんは壺をほめてくれますが、主体は「野アザミ」です。

喜田コメント: 若林さんはこの1年で最も技量が向上した一人です。

この作品の一番優れているポイントは、花瓶がすべての重量に耐える重々しさと質感を備えていることです。反射する光、陶器の厚み、そして、重さと硬さを感じます。

主題の「野アザミ」もよく観察されて、描けていますが、枯れ始めた「野アザミ」の花に対して、葉が新鮮すぎると思います。もう少し暗く、茶褐色を含んだ葉や茎の表現があってもよいと思います。背景の処理の仕方、色彩は抜群です。

構図的には壺の左側の空間に机の横方向の線が欲しいところです。右端の「ナス」は不要。



喜田祐三「路面電車の走る街・ウーン」

作者コメント： この作品は昨年 7 月、妻と旅したウーンのスケッチを水彩画にしたものです。
ウーンの夕暮れは、馬車曳きが客待ちのために屯している、夕焼けを背景に走る路面電車
があるだけで、旅情をそそられます。

以上